

地域との共生

社会に提供する価値

- 「住みたくなる、行きたくなる沿線づくり」
- 「鉄道の強みを活かし、地域と一体となった観光振興」
- 「地域と連携し、エリアに即した事業展開による地域の活性化」

地域との共生 全体像

西日本地域の活性化

- 「JR西日本グループ一体でエリアに即した事業を展開」
- 新幹線「高める」：新幹線のポテンシャルを高め、交流を促進
- 近畿エリア「磨く」：線区価値を向上し、都市の魅力を磨く
- 西日本各エリア「活かす」：各エリアの魅力を活かす事業展開
- 事業創造「伸ばす」：新たな事業分野への持続的挑戦

社会貢献活動の推進

- 会社としての活動
 - 職場ごとの活動
 - 財団を通じた活動
- 企業として、一人の社員として、
地域の一員として、地域に寄り添い、心の通い合う関係づくり
地域社会



推進責任者

常務執行役員
総合企画本部長

緒方 文人

基本的な考え方

人口減少をもたらす経営リスクが従来以上に明確になってきている一方、全国各地で地方創生に向けた動きが加速しており、具体的な取り組みの成果も現れつつあります。そのような状況において、当社も地域とWIN-WINの関係を構築し、ともに地域の活性化を図っていくことにより、鉄道を核に事業を営むJR西日本グループの持続的成長につなげていきます。推進中の「JR西日本グループ中期経営計画2017」においても「ありたい姿」として「地域共生企業」となることを掲げています。

具体的には、各エリアにおいて地域の皆様との対話を重ね、当社グループと地域の皆様が人的ネットワークを構築し、地域の課題やニーズを共有しながら、地域としての「ありたい姿」を一緒になって模索していくことが大切だと考えています。そのうえで、駅周辺整備や観光誘客、地域交通、エリアに根ざしたビジネスの展開などにおいて、自治体や地元企業などとの連携を深め、地域とWIN-WINの関係を構築することを通じて、長期持続的に成長する「エリア経営」の実現をめざしています。

社会貢献活動の分野においても、各エリアで地域との交流など職場レベルでの取り組みを続けています。合わせて、地域が抱える課題に対して、当社グループの強みを活かして解決に貢献する取り組みにも力を入れています。

P 〈近畿エリア〉線区価値を向上し、都市の魅力を磨く

D 鉄道を中心とした「住みたくなる」沿線づくりや、「行ってみたい」「乗ってみたい」と思っていたけような線区づくりに取り組んでいます

駅改良や生活関連サービスの充実を通じた線区価値の向上

エリアごとの特色を活かしながら線区価値の向上を図るため、街づくりや再開発と一体となつての駅や駅周辺の整備を進めているほか、駅が地域の拠点となるよう、生活関連サービスの充実に取り組んでいます。

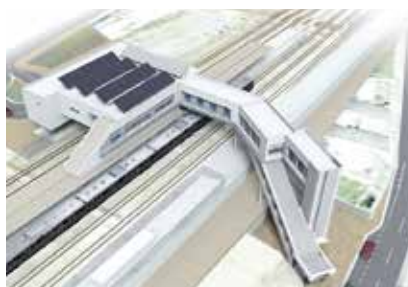
‘15 4月 エレベーター専用エスコン*1の設置など太秦駅のバリアフリー工事が完成



‘15 3月 立命館大学新キャンパス開設を契機とした茨木市による茨木駅東口整備と合わせて、茨木駅のリニューアルを開始



‘16 春 「エコで快適なまちづくり」をコンセプトにして、六甲道・灘駅間にまや駅(仮称)を設置予定



用語解説 *1 エスコン：駅本屋からホームへお客様を導く通路が、線路を横断する場合に設けられる駅構内の橋

自治体や地元企業・学校との連携推進

自治体や地元企業・学校と連携し、エリアごとの特色を活かしながにぎわいを創出するなど、線区価値を向上させる取り組みを進めています。2015年5月には、駅を中心としたにぎわいのあるまちづくりに貢献していくため、大津市と大津駅の外装改修工事に関する協定を締結しました。

※京都・梅小路エリアの取り組みについては特集P.11をご覧ください。

‘14 7月 湖西線開業40周年に高島市・滋賀県と共同で記念事業を実施



‘14 10月 地元の学生とともに、乗車マナーに関するキャンペーンを実施(木津駅)



‘15 3月 地元の高校生に制作していただいた姫新線「路線図マップ」を列車内に掲出(姫路鉄道部)

エリアの魅力ある資源の発掘と発信

エリアの魅力ある資源を発掘し、当社がもつ媒体を活用して発信することにより、地域の活性化に貢献していきます。

2013年度より、自治体・観光協会と連携し、関西の歴史と寺社を紹介する「ちょこっと関西歴史たび」を展開し、関西の魅力を発信しています。



Highlight 大阪環状線改造プロジェクト

地域の皆様との連携により、大阪を元気にします

お客様や地域の皆様、大阪を訪れる方々に喜ばれ、「行ってみたい」「乗ってみたい」魅力あふれる大阪環状線をつくり上げるため、『大阪環状線改造プロジェクト』を進めています。

HP http://www.jr-odekake.net/railroad/osakaloop_kaizou/



プロジェクトのめざすところ

重点施策①	重点施策②
安全快適な駅づくり (駅美装・改良)	駅構内および高架下の 開発・リニューアル
重点施策③	重点施策④
車両新製	地域や他交通事業者との連携

お客様満足度の向上

新しい価値の創出

線区全体のイメージアップ

大阪環状線を「行ってみたい」「乗ってみたい」線区に改造し、大阪環状線から、大阪を元気に!

‘15 5月

モデル駅として改良を進めてきた森ノ宮駅がリニューアルオープン。駅近の大阪城公園などにちなんで「森」をコンセプトに定め、駅ファサード*2部の緑化など専門学校生の提案を具体化



用語解説 *2 ファサード：街路や広場などに面する建物の正面部分

Voice 社外からの一言

「音づくり・仲間づくり・街づくり」に向けて

天満音楽祭実行委員会
プロデューサー
海家 聖雄 様



「音づくり・仲間づくり・街づくり」をコンセプトに掲げ、地域の企業家仲間と始めた天満音楽祭は、今や地域になくはない音楽祭に成長してきました。2014年度の「TEN-ON ぐるKAN LIVE」によって、世間の評判や注目度がこれまで以上に高まり、音楽祭としてのステージが上がったこと、そして「音づくり・仲間づくり・街づくり」の輪がさらに広がったことを実感しています。また、2015年度は大阪環状線19駅の発車メロディを演奏する企画を実施しました。JR西日本とはこれからもぜひ協力してやっていきたいですね。今後も天満音楽祭を通じて、大阪の景色やグルメを楽しめる観光列車としても魅力ある大阪環状線をもっと多くの方々に知ってもらいたいと思っています。

音楽列車「TEN-ON ぐるKAN LIVE」の様子



P 〈西日本各エリア〉各エリアの魅力を活かす事業の展開

D 自治体や地元企業と連携し、それぞれのエリアの持つ魅力を活かす取り組みを展開しています。合わせて、地域交通のおかれた現状や将来の姿を地域の皆様と共有し、次世代に向けた解決をめざす取り組みも進めています

駅を中心としたまちづくりとグループ一体となった賑わい創出

西日本各地の駅を中心としたまちづくりを推進し、グループ一体となってにぎわいの創出に取り組んでいます。

‘15 5月 鳥取駅前に鳥取県内で初めて「スターバックス コーヒー」を誘致(JR西日本山陰開発)



主要駅の拠点性向上と都心部へのアクセス向上

広島都市圏では、広島駅の橋上化、新白鳥駅開業などを進めることにより、広島駅周辺の拠点性向上とシティネットワークの充実に取り組んでいます。

‘15 3月 山陽本線とアストラムラインとの結節点に「新白鳥駅」を開業



西日本の新たな地域産品の発掘と情報発信

西日本の魅力ある産品を発掘し、発信していきます。

‘15 6月 鳥取県で陸上養殖された高付加価値マサバ(お嬢サバ)の共同市場調査を開始



‘15 5月 山陽新幹線車内で地域の特産品をお届けする「走る日本市」を開始

鉄道の強みを活かし、地域と一体となった観光振興の推進

地域と連携して観光素材や観光ルートの開発、デスティネーションキャンペーン(DC)を通じた観光振興に取り組んでいます。2014年度の和歌山DCにおいては、和歌山・高野山・熊野といった広域ルートを開発するとともに、DC終了後も継続して当社媒体を活用した情報発信を行うなど観光振興に取り組んでいます。

‘14 秋 和歌山DCでは多くの方々和歌山エリアの魅力を体験



‘15 3月 観光列車「天空の城 竹田城跡号」の運行を開始



P 社会貢献活動のさらなる充実

D 鉄道をはじめ当社の事業活動とのつながりの深い領域を中心に活動を展開しています

地域社会に貢献する取り組みを推進

地域とともに生きる企業として、地域イベントへの参加や安全教室など地域に根ざした活動を行うとともに、地域が抱える課題の解決に貢献する取り組みにも力を入れています。

‘15 5月 伝統文化の継承を支援するため「地域伝統芸能フェスティバル」を開催(写真は福井県の勝山左義長ばやし)



‘15 1月 あしやキッズルームにて踏切安全教室を開催(芦屋駅・神戸信号通信区)



‘15 5月 グループ会社、鉄道少年団*1などと協力し、海ガメの産卵地である千里の浜を清掃



JR西日本あんしん社会財団*2の取り組み

安全で安心できる社会づくりに資するNPOなどに対する助成を行うほか、救命処置の普及啓発などに取り組んでいます。

C 地域の皆様と人的ネットワークを形成し、「ありたい姿」を共有する具体的取り組みが実現

地域との共生に向けた取り組みは緒についたばかりで

すが、地域活性化の兆しが見えつつある取り組みも出てきています。具体的には、「山陰いいもの探県隊」「吉備之国くまなく旅し隊」「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」などの取り組みが深度化し、人的ネットワークが構築され、地域が成長する活力につながりつつあります。

社会貢献活動については、2014年、2015年と連続して「地域伝統芸能フェスティバル」を開催し、伝統文化の継承という地域が抱える課題に対し、当社グループの強みを活かして少しでもその解決を支援する取り組みを行うこと

ができました。また、同じ地域の職場間で連携し、旅育*3や安全教室に取り組むなど、地域に根ざした活動が増えつつあります。

毎年定期的に行っている企業レピュテーション調査では「地域社会に貢献している」という項目の評価が年々上昇しており、当社が「地域との共生」に取り組んでいることが少しずつ社会に認識されてきていると考えています。

引き続き、地域とともに長期持続的に成長する「エリア経営」の実現に向け、具体策を積み重ねていくことが重要な課題だと考えています。

A エリアの魅力を再発見・発信するとともに、エリアの強みを活かした事業を具体化していきます

エリアに即した事業を展開するため、地域の皆様との人的ネットワークを構築し、活かすことにより、観光や地域産業の振興を図り、地域の活性化につなげていきます。また、各種取り組みを一過性のものとせず、持続性を持たせ、成果の定着化をめざします。

近畿エリアでは、大阪環状線や京都鉄道博物館などのプロジェクトにおいて、人的ネットワークを活かした取り組みを発展させ、都市型観光を推進するなど、線区価値の向上を図っていきます。

西日本各エリアにおいては、地域と連携した観光ルートの開発や、エリアの魅力を再発見・再評価し、発信する取り組みを継続して行っています。また、地域とともに発掘したエリアの魅力を「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」のコンテンツとしても活かすなど、観光や地域産業の振興を推進していきます。

社会貢献活動については、地域に根ざした取り組みを継続・深度化することに加え、地域とともに地域の課題解決に貢献する取り組みにも引き続き力を入れていきます。

用語解説

- *1 鉄道少年団: 青少年の交通道德の高揚を目的に、公益財団法人交通鉄道協会が運営している活動。当社は発足以来、その活動を支援しています。
- *2 JR西日本あんしん社会財団: 福知山線列車事故の反省に立ち、「安全で安心できる社会づくりの一端を担いたい」との思いから設立した公益財団法人
- *3 旅育: 小学生や幼稚園児を対象に駅見学や体験乗車などを組み合わせた課題学習プログラム

Voice

助成先の方から

安全で安心できる社会の構築に貢献するために

特定非営利活動法人
ジャパン・タスクフォース
理事 柳田 健一郎 様



すべての消防署に十分な資機材が配備されているわけではないなか、災害時において入手しやすいハシゴとロープを用いて救助活動が行える「ラダーレスキュー」の知識・技術の普及を図ることで、一人でも多くの命を救えるようになることをめざした講習会を開催しています。この講習会へのJR西日本あんしん社会財団からの助成は、講習会参加者の費用を低減できるだけでなく、私たちの活動に対する社会的信頼が向上し、公的な助成を得ることもつながっており、とても大きな財産になっています。

昨今、災害は各地で頻発、多様化しており、対策の整備が追いつくのを待ってはくれません。災害に対する「自助」「共助」「公助」のうち、救助力の大きい「公助」の力の向上に向け、消防の方々の技術の「引き出し」を増やすことで、社会全体の防災能力を高め、安全で安心できる社会の構築に貢献したいと考えています。